

平成14年度事業報告

自：平成14年4月 1日

至：平成15年3月31日

【事業実施概要】

今年度の特定非営利活動法人「広瀬川の清流を守る会」は市民行政協働で広瀬川と流入流出する支派川の環境改善を主たる目的とする一連の事業を下記のとおり実施した。

1. **公開講座**は河川行政担当者、精通者を招いて広瀬川の環境や課題について知識を深め、何ができるか何をすべきかを学んだ。
2. **ホタル飼育と環境づくり**は県内外にわたり実施。仙台市青葉区下愛子所在の蕃山ピオトープ「ホタルの里づくり」では水路復元による自然再生を図る環境実験として取り組み、土地提供の奥田会員の協力によって短期間の中でホタル環境再生に成功した。開所式や幼虫放流式の模様はNHK 仙台放送局はじめ、マスコミ各社から取材を受け、報道された。
また、市外では県立蔵王高校、遠刈田、県外では山形県鶴岡市湯田川においてホタル再生と環境について講演と再生の支援を行った。
3. **河川清掃**は冬季間を除き、広瀬川・広瀬橋上下域約500mのゴミ除去を市民と一緒に実施、ゴミ投棄問題を通して河川環境を学んだ。また清掃終了後、春は花見会、秋は芋煮会、12月の焼き芋会などを開催し、参加者との懇親を深めた。
4. **イベント**
第3回「**政宗さんの川狩り**」を広瀬川八本松河原で開催した。川ワークショップを通じた川体験は市民と川との接点を図る活動として実施され、普段川へ来る機会の少ない市民が川を理解し、川の楽しみを五感での体験イベントとして開催した。参加者にはアユを獲って自分で串に刺し、塩焼きで食べる貴重な体験を通して好評であった。
第3回「**広瀬川初歩き**」は広瀬川に流入する木流堀(名取川から広瀬川を結ぶ約6kmの水路・藩政時代から燃料用の薪を運んだ人工水路)の歴史と環境を学ぶ目的で実施した。

5. 広瀬川なんでも相談室

国、県、市連携をもとに、広瀬川の関する一元的窓口を前年度11月より(東北初)スタートした。

河川行政は行政間が多岐にわたり、市民は河川に関し、どこに聞いていいかわからない状況が見られる。そこで一元的に窓口をNPOとして開設し、会員が河川に関する質問・相談・苦情を即答(ワンストップサービス)や行政担当部署、担当者の紹介などをおこなった。

6. **情報公開**としてホームページで活動内容を発信、また「今日の広瀬川」では菊地会員が年間を通じ、コメント付き画像で広瀬川の四季の風景や事象についてビジュアルに発信した。これらは県内外からも高い評価を受け、HPヒット数を伸ばした。

これらのほか平成15年1月、自然再生推進法が施行され、河川、湿原、干潟、里山、森林、その他の自然環境などを保全再生、創出させる法律ができたことから、蕃山ピオトープ、笹川遊水地の湛水による自然再生など環境改善活動に追い風の機運が出てきた。次年度へ向け行政との連携と取り組み方を検討する。

仙台市企画局、「広瀬川創生プラン」策定事業の委員長として、市民協働の川づくり素案づくりに参画、3月21日アエル6階で「広瀬川市民フォーラム」(仙台市、観光協会、実行委員会共催260名)を開催、広瀬川への手紙、ミステリーバスツアー開催などを実施。また市民行政協働の素案「河水千年の夢」策定に関わった。

1. 公開講座

月日	テーマ	講師
5月22日	広瀬川の濁水は何故起こるのか	日下 均会長
6月26日	ホタル飼育とまちづくり	国土交通省仙台工事事務所 事業対策官 遠藤 隆一氏
7月24日	治水と利水と環境	宮城県仙台土木事務所 建設第4班班長 大庭 博氏
8月28日	広瀬川創生プラン(市民の川を目指して)	市企画局企画調整課主幹小林 陽一氏 主査菊田 敦氏
10月25日	総合学習とNPO	片平丁小学校教師 相澤 文典会員
11月27日	木流堀の環境今昔(名取川からの導水)	日下 均会長
15/1月22日	できるか広瀬川・河川管理委譲	日下 均会長
2月26日	笹川遊水地自然再生プロジェクト	日下 均会長 県仙台土木事務所 班長大庭 博氏
3月26日	貞山運河について - 環境と親水 -	仙台都市総合研究機構 主任研究員 渡辺 洋一氏

2. ホタル事業

月日	活動	備考
通年	ホタル幼虫飼育	会員(松野・加藤・伊藤・菊地・相澤・渡辺善・奥田・日下) 学校(若林小・亘理町立吉田小) 以上水槽貸与飼育
5月30日	出前講師(みやぎNPO プラザ事業)	蔵王高校高校生へホタル生態と環境を講話(松野・日下)
6月13日	同上(2回目)	同上
6月15日	鶴岡市湯田川	ホタル再生支援(ホタルの生態と飼育・環境調査)
6月16日	同上	松野会員・日下夫妻同行
6月27日	亘理町ホタル採取	種ポタル採取(次年度幼虫にして放流)
6月29日	第3回ホタル観察会	ホタルの家(長町一丁目飼育小屋)
6月30日	同上	同上
8月～	蕃山ピオトープ「ホタルの里づくり」 芦の口小「ホタルの里づくり」	下愛子山岸(水路復元整備とホタル再生)奥田会員 ホタル支援(ホタルの生態・環境調査)遠藤・広瀬・日下
11月16日	蕃山「ホタルの里づくり」開所式	復元水路にカワニナ・セリ放流(NHK・河北ほか報道)

)今年度7月初めてホタルの成虫を長町病院と仙台日赤に展示。松野会員作成のホタル観賞セットに数十匹入れ、入院患者、先生、看護師の皆さんから大変喜ばれました。ある患者さんは「どんな大金のお見舞いよりも、どんな大きな花かごよりもありがたく感動した」

3. 河川清掃 4月～12月 第2土曜日開催 広瀬橋周辺

第1回	4月13日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者34名)
第2回	5月11日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 広瀬公園前の河川敷 (参加者22名)
第3回	6月8日	広瀬公園前の河川敷～郡山堰～愛宕堰 (参加者19名)
第4回	7月13日	八本松付近から郡山堰までの河川敷 (参加者21名)
第5回	8月10日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者27名)
第6回	9月28日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者24名)
第7回	10月12日	広瀬橋付近の河川敷～宮沢橋までの両岸の歩道付近(参加者36名) 芋煮会
第8回	11月9日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者26名)
第9回	12月14日	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者62名)長小の子供達、先生多数参加
第10回	15年3/29	郡山堰～広瀬橋～八本松付近 (参加者120名)コスモアースコンシャス共催

4. イベント

(1) 第3回「政宗さんの川狩り」 8月24日(土) 開催 (参加者160名参加)

雨模様の中で開催、多少高水であったが無事に終了。子供たちは元気に川に入り、アユを捕まえていた。(最高15匹)また体験として、アユの塩焼きを子供たちが自分で串に刺し、炭火で焼いて美味しく食べて。

(2) 第3回「**広瀬川初歩き**」平成15年1月11日(土) 13:00~15:00

「木流堀を名取川まで」散策/小春日和の中、太白区長町地区広瀬川流入点から門前・土手内・西多賀・富田・名取川まで6kmを歩いた。途中、木流堀の三面コンクリート形態や水の流れ、木流堀が笹川を横断するために笹川の土嚢積みによって焚き木を流す工夫など、また史跡(土手内古墳・富田遺跡)などについて日下会長が解説。笹川最終点では甘酒が振舞われた。その後名取川頭首口を見学、伊藤会員のバスで帰った。(参加 20名)

終了後はいとう会館で新年会を開催、1年の抱負などを語り合い懇親を深めた。

5. 広瀬川なんでも相談室

河北新報社、仙台市の広報誌によってPRされ、相談返答は74件であった。内容は5月末から6月にかけて広瀬川下流域濁水によって発生した魚の大量死や中州と樹木の繁茂による洪水懸念に対する相談、河川敷の無断使用(畑耕作)の問題についてなど深刻な相談苦情を受けた。小中学生からは総合学習の水生物、環境に関する多数の相談など多種多様あり、ワンストップサービスの即答や河川管理の宮城県土木事務所など担当者に確認しながら慎重に返答、集計はそれぞれ行政に通知し、ホームページで公開した。

今後の課題として、専門担当者の育成と配置、行政との連携、広報など存続体制を立てる対応が求められている。

6. 情報公開

ホームページによる活動予定ならびに報告、毎月会員宛発行の広瀬川通信、河北新報社読者のひろば掲載による行事の周知とPR、その他各種メディア媒体による活動の発表、下水道フェア(10/19)、仙台環境フォーラム2002(11/10)パネル展示で「**広瀬川どっと混む**」- 100万人の川づくり - と題し、当会の活動を紹介した。

その他

出前講座

総合的学習「広瀬川と生き物(ホタル)・環境」について講演

「講演および出前講座ほか」一覧

委員

国土交通省 「21世紀の名取・広瀬川を考える懇談会」「みちのくの川づくり勉強会」(委員)

宮城県 「広瀬川河川管理協議会」(委員長)

仙台市 「広瀬川創生プラン素案づくり実行委員会」(委員長)

その他 「東北流域会議」(副代表) 国土交通省東北整備局 所管

受賞

環境省 環境管理局水環境部長賞 6月7日仙台市庁舎で市環境局長より伝達式

局長より今後一層の水環境種功を期待するとの言葉があった(受賞理由は水環境保全活動に貢献)